

“音楽の父バッハ”と“赤毛の司祭ヴィヴァルディ”のとおきの傑作を
延原武春率いるテレマン協会メンバーが演奏。
場所は、歴史的な重要建造物に指定された中崎公会堂。
明石の歴史と宮廷音楽の伝統が融合し、新たな反応が起きる当公演。
どうぞ、肩ひじ張らずお気軽に足をお運び下さいませ。

Profile



指揮とお話： **延原 武春** (のぶはら・たけはる)

18 世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963 年にテレマン室内オーケストラを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第 17 回サントリー音楽賞」(現在もテレマンと東京交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)等を受賞。

1982 年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏(世界初)。2008 年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲者指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。

ヴァイオリン： **浅井 咲乃** (あさい・さきの)

テレマン室内オーケストラ、ソロコンサートマスター。2008 年にヴァイオリン・ソリストとして登場し、ヴィヴァルディの「四季」全曲を見事に好演。2010 年の第 195 回定期演奏会における同曲の公演も「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」(モーストリークラシック 2011 年 2 月号)という高い評価を得ている。2012 年にはナミレコードよりヴィヴァルディ「四季」全曲、「ムガール大帝」などを収録した 1st アルバムを、2015 年には 2nd アルバム「『よるこび』と『かなしみ』」をリリース。2016 年から 2017 年にかけて、オリジナル楽器によるベートーヴェン作曲ヴァイオリン・ソナタ全曲公演に出演。



チェロ： **鷺見 敏** (すみ・さとし)

兵庫県西宮市出身。京都市立芸術大学音楽学部を経て同大学大学院音楽研究科修士課程を卒業。Phoenix OSAQA、草津夏期国際音楽アカデミー、森悠子主宰キャパシティビルディング、La Loingtaine マスタークラスなどの講習会を修了。Japan string quartet、タマーシュ・ヴァルガ、森悠子、安紀・ソリエール、ラファエル・ベル氏らの元で研鑽を積む。ル・ポン国際音楽祭に参加。これまでにチェロを向山佳絵子、上村昇、林裕、小川剛一郎の各氏に、室内楽を上森祥平氏に師事。

チェンバロ： **高田 泰治** (たかた・たいじ)

2002 年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。J.S.バッハの作品をテーマにチェンバロのリサイタルシリーズの演奏内容が高く評価され、2011 年「バッハ・アルヒーフ」(ライブツィヒ)定期演奏会に招聘された。C.ショルンスハイム、A.シュタイアー、O.ボーモンらに師事。平成 23 年度坂井時忠音楽賞受賞。平成 28 年度咲くやこの花賞音楽部門受賞。2018 年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞受賞。



テレマン室内オーケストラ

1963 年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。その活動は高く評価され「サントリー音楽賞」「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、等を受賞している。2003 年、ドイツの「バッハ・フェスティバル」で C.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。2007 年にはクラシカル楽器による F.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演、「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞。

2012 年よりドイツ人バロック・ヴァイオリン奏者ウツラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。